

會員の頁

第21卷第2號 昭和13年2月

土木報國運動

會員有志

我々日本帝國の土木技術家は、今や舊來一切の羈絆より脱し、靜に自由高所の立場よりその使命の再檢討を要すべき必然の時期に遭遇す。

即ち明治初年以來、我土木技術家は澎湃として押寄せ來る西洋土木文化の粹を探るべく汲々として学び、漸く彼の理論を收め、工法を学び、今や東洋古來の土木技術と融合せしめ、茲に彼我同一の域に到達し得たるかの觀あり。

ベルシヤ、アフガン國等への技術家派遣、シヤム國の首都バンコック築港計畫の世界競争場裡に於ける勝利等は好く是を物語るものにして、日本帝國の名を辱しめざる好範例たるを失はず。

然るに國運は日支事変を契機として、更に異常なる飛躍を見、將に有史未曾有の發展を劃さんとす。

此の秋に當り先づ颯起を促さるべき者は人類文化の開発者、指導者を以て自ら任ずる土木技術家には非ざるか。

數千年來支那の民を苦しめ來りたる彼の黄河は、今日尙悠々として暴威を振り、無盡藏の天然資源は地中奥深く埋れ、揚子江は依然として支那を南北に分つ。

歐洲を運ぬる縦貫道路の敷設、寒熱地帯を結ぶ鐵道

線路の建設、世界の海を東洋に蒐むべき築港の開設、或は理想都市の建設等、當然吾人の手を経べき古今東西の難事業は山積す。歐米列國は是が成否を以て帝國の鼎の輕重を問はんとす。之が解決は男子の本懐とする處にして、生を此の好機に享けたる者の感謝せざる可からざるものと云ふべし。

然るに讎つて我が土木界の現状を視るに、自ら省みて此の重責に耐へ得と揚言し得る者果して幾人ぞ。

從來日本の土木事業を運用し來りたるものは果して技術家たりしや？。技術家養成の根本方針を樹立し、是が指導の任に當れる者は果して技術家たりしや？

國家非常時の現状に對し、技術家は一致して自主的に、何を爲さんとしつゝありや？

我々土木界の一切は國家が吾等土木技術家に全責任を、負擔させ居るには非ざるか？

今や我國は庶政一新、上下協力して刻下の非常時局に善處すると共に、亦明日に於ける帝國の躍進に備ふべく萬全の努力を拂ひつゝあり。我等土木技術家も土木事業の本質を認知し、進みて渾身の奉公の至誠を致さざる可からず。既に土木報國運動の熾烈ならんとするものあるは寔に喜ぶべき現象と云ふべし。

土木報國精神の強化

會員 矢野勝正*

多難なる我帝國の時局を打開し益々國力を充實し國威を宣揚するものは國民の民族的團結と愛國報國精神の強化及此が實踐具体化に在る事は言を俟たない。百の方策千の空論よりも一の實踐でなければならない。今にして吾々皇國に生を享くる者滅私奉公の愛國精神を啓揚強化し邦家の爲に盡すに非れば敗戦亡國民族の

悲惨なる苦杯を嘗めなければならないのである。

吾々土木技術者は平時は資源の開発、交通運輸の完備、衛生施設の整備、天災地変の豫防工作等國力の充實、國民生活の安定の國策に準據し努力すべきは勿論の事一度戰戈を交へ外敵と國を擧げ戦ひを挑む時は敢然颯起し皇軍と相協力し非常時國軍の輸送設備、衛生

* 内務技師 工学士 内務省土木局第一技術課勤務

設備及資源の開発に總動員を爲し軍の行動を円滑迅速ならしめなければならない。此が爲には平常に國家意識を強固にし愛國精神を充分把握し堅固たる信念を有しなければならない。と同時に土木總動員計畫を微細精密に確立し、常に軍隊式訓練を以て規律あり統制ある團体的行動をとり得る様にして居らなければならない。而して國力充實への勤勞奉任を爲し私を没却し國家報公の念を熱烈に涵養し常に緊張せる精神を以て努力しなければならない。今や一國の非常時に際して一身の保身、一身の榮譽は問題でない。皇軍將士の嚴寒酷暑の下に奮戦せる困苦を想起すれば吾々銃後の技術

者は到底安閑として居れない筈である。

愛國愛國の青年技術者はこぞつて其の有する技術を以て一死以て國に報ゆ可き秋ではあるまいか。想ふに土木技術は土木の爲或は土木技術者の爲の土木技術ではない。土木技術は國家に盡し國家に報ゆる爲の土木技術である故に土木技術及土木技術者は常に國家的であらねばならない。

皇國の非常時下に際して土木技術者一致協力し土木報國の精神を益強化し盡忠報國の技術報國の具現すべき急務なるを痛感するものである。

文 化 と 消 費

准 員 藤 田 龜 太 郎*

神戸を立つたのが残暑も消えんとする9月30日。吳淞沖の一泊では甲板から高射砲彈の花火を眺め、サイゴン河の遡江半日は鼻を撫でん許りに近い鬱蒼たる兩側の熱帯樹林に正に酷熱の蠻地に分け入る心地がしたが、着いて見れば綠蔭見事なサイゴン文化都市についてかうかと船まで長居して豫定を遅らす始末、2萬噸の巨船も安南の黒髪に繋がれては仲々に断ち難かつたと見える。排日氣分沸騰の香港支那街に迷ひ込んで、這入つた序と街頭スナック 2,3 枚に及んだが、巴里着後よくも無事で歸れたものと在留友人から魂氣られて、桑原々々を唱ふる事 5,6 遍、シンガポールは流石に天下の良港にして要港である。良港とは水深と云ひ地形と云ひ港灣の素質に缺くる事無きの謂であり、要港とは東亞の海と印度、歐洲の海との否東西兩半球の海路に横はる最大要關の謂である。

商衢の殷盛、住宅区域の美麗、同市の富強は必ずや旅人の腦裏に強い印象を植ゑずには置かまい。

14 日の朝着いて夕方には立つた短かい碇泊に過ぎ無かつたが、丘から谷へビロウド其の物の芝生が展げられ、椰子、パパイヤ、ゴム、檳榔樹、カボック等の熱帯樹に圍まれた見るからに潤やかな英人住宅の赤屋根が今以て非常に鮮かな油繪を眺めた様な感じを残して居る。

新嘉坡からコロomboを経てデブチ迄の約2週日に近

い印度洋の横断は歐洲航路中最も倦き倦きする區間である。踊れる者は相手選ばず、唄えるものは閑手が猫でもよく、駄辯の者はビールの泡を吹き、書けるものは稚筆も何の其の。めいめいどうにかして倦意から逃げる工夫をする。

此の一文もコロombo迄未だ 1000 海里と云ふ頃物した。然し決して倦意の餘暇の作ではない印度洋の酷暑と戦ひつゝ故國の奮起振を想ひ乍ら大いに張切つて綴つたものである。

文化が進むと消費も嵩む。練馬育ちの御嬢さんが大根脚にハイヒールを泣かせ、馬と添鞍の丸木小屋に寢藥の溜みを惜んだ西部劇の主人公が幾代経たらん今日では田舎者には開いた口ならぬ目が塞がなからう高厦玉腰に綾羅の重みを苦にして華胥に飽く。文化なる哉である。

消費は文化のバロメーターである。然り好個のバロメーターではあるが、其の通用には或る種の制限がある。通用せしむべき範圍がある。此の範圍の認識出來ぬ者丈が徒に泰西と日本を見較べて、彼等の消費大いなるを以て文化我に進めりと驚く。母國に在つては先覺と矜り、萬事に具眼と任ずる有識連中が一度海外に出て宏壯の住宅、一見派手な外様に圧倒されて矢張毛唐は偉いと感心する。横文字を書かぬと文明の民で無い氣がする。笑止の沙汰ではあるが他人事でない。

* 朝鮮總督府鐵道局建設課（フランス出張中）

我々の常時敬愛する先輩諸氏の達識は毛頭此の愚を演じた事も無く演じもすまいが、自任他任の数ある世の指導者流には残念乍ら無しとは言へぬ。後來続くべき秀才連にも此の轍にはまる危険があるやも知れぬ。笑止と丈では澄して居れぬ。

昨夜の伊太利氏（シンガポールから同船になつた壯年の伊太利人で喫茶室や談話室で良く一緒になつたが、之も同船の佛蘭西海軍士官を煙に巻いた氣相は仲々面白かつた。伊太利訛のある佛蘭西語を雄辯に操る。此の話も一夕余と之等士官連を前にしての彼が熱辯の一節である。）の外交論の長講一席にあつては、

フランスでは自家用に自動車が行く。婦人の服装は美しい。男子の身形は凝つて居る。喰物は上味い。そして遊んで暮す御身分が可なりにある。（成程フランスには年金と貯蓄の利子で樂に暮す連中が非常に多く、年金亡國の非難は日本の恩給に對するそれ以上に佛蘭西國庫の現況にあてはまる。）だから現在の佛蘭西には發展的な意慾が缺ける。又發展的な勢力が剩らぬ。然るにどうだ。伊太利では皆働く。働く者のみバンに権利ありとは現在の伊太利人が最も忠實に遵奉して居る。個人の出歩きに餘り自動車は用ひぬ。伊太利人は何時でもマカロニー皿で結構明るく日を送れる自信がある。平常の個人生活費、同時に國家の消費部門は（例へば官公吏の給與等）出来る限の簡素を旨として居るから飛行機が出来る（事實現在の伊空軍の實力は英佛2空軍を以てしても對抗出来ぬと評價されて居り、數があつても裝備の古い佛國空軍丈ならば正に鎧袖一觸と迄云はれて居る。此の空軍あればこそ伊太利は地中海を睨んで英國に突張れるので、英國地中海艦隊の根據地マルタ軍港は此の強力空軍の前に全く無力化されて了ひ、其の爲最近英海軍は亞弗利加北岸のアレキサンドリヤに艦隊の集結変更を実施したが、此のアレキサンドリヤとて伊空軍網の前にはマルタ軍港と五十歩百歩に過ぎず、英國は其の爲目下非常な焦慮の中に之が對抗策に苦心して居る。25億磅と云ふ英の大軍費は實に如上の必要に迫られた事に全部的でなくとも最も主要な因由を持つものであると云はれる。）軍用自動車はふんだんに持てる。普段の生活が簡素故緩急の時に困らぬ。消費を節するから餘剰が残る。之が貯れば發展的な勢力となる。エチオピアの開拓振はどうだ。アデスアベバと地中海を繋ぐコンクリート舗装自動車路（此の道路は全延長照明燈が配置されて居る）の竣成振はどうだ等々……

強ち貧乏人の負惜みと許りは聞かれまい。

簡單は幼稚。複雑は開化とはアフリカ土人と支那人の間なら一律に適用もしようが、白人同志、白人對日本人と云つた文化民族間に在つては多くの註と但書が附く。

分化と綜合は常に進化の表裏である。分化したものが何時迄も分化のしつ放しでは意味がない。分化は更に整つた綜合への階程であるべきである。綜合は合理的な簡易化を必要とする。

骨董趣味を楽しむなら別の事、皿數と皿の素性で御馳走の多寡を判じたのは昔。進んだ今日の御客なら皿は5錢の安物で結構、5皿も6皿もは要らぬ。醜陋味を2皿か3皿も出して呉れたら其の方が餘つ程有難からう。

英國人の食堂では婦人が遣入つて來ると其の都度一面識あつても無くても、女の素性が堅からうと駄からうと兎に角女客の出入なるが故に全員起立の禮を取るのが多い。繁文縟禮の見本である。

眞に要素と醜陋味丈を残して殘滓を瀧捨したのが合理化された複雑であつて、意義ある複雑ならば常に此の簡潔を目的とせねばなるまい。

東京の氣候は實際の處餘り自慢にはならぬ。小学校では氣候溫暖、風土和順とか云つて此の上なきが如く賞めて教へるが、溫暖なのは寒暖計の示度の上丈、7、8月の蒸し暑さは身に耐へてはサイゴン、シンガポール以上である。御蔭で印度洋に來ても喝かされた程困らず、火鉢一つで秩父嵐を我慢して育つた故酷寒30度の滿洲でも仕事が出来る。

斯う考へると日本人の生活の簡單、消費の少ない事は我々の大なる強味でなくてはならぬ。植民地の土人を喝かさうと云ふなら兎に角、山高きが故に貴からずと同じで家大なるが故に必しも貴くはない。寢起の場所と安息の空間をとつて十分ならば其れ以上は無用の長物。況や方一丈の草庵に雅情を籠らせ幽懷を叙べ得る國民に於てをや。

蠶は甲羅に似せて穴を掘る。何も毛唐の住居に唾涎するが事はあるまい。

飛行機が飛び、潜水艇が潜り、街頭にはロボットが現れて、玉錦や男女の川が天下取になれぬ世の中では個人間でも國家間でも生存競争は頭でやる。肉体は健全なものならばそれでよい。11貫の瘦骨に天下の屋臺骨を背負ひ切つた犬養翁の例もある。

斯く觀ずればでかい體軀の毛唐が必しも得しては居

らぬ。早い話が同じ距離を動くにも運動量が大きく消耗が嵩む。殊に飛行機や潜水艇の様なものでは勝手に大きく造る譯に行かぬ故、それだけ活動力が鈍る。

大戦中英國の或る將軍は佛蘭西のフォツシユ元師の俸給を聞いて其の豫想外に少額なるに驚き、佛國陸軍の強いのは此處にありと感嘆した。然らば其のフランスより少ない俸給で満足する皇軍將士の上海に於ける猛勇振等は差當り當然の歸結となる。

亞米利加人が若し今の生活の半分の暮しが出来たら亞米利加は恐らくもつと強くならう。モンロー主義等唱えずに今より遙に東洋にものさばり出たに違ひ無い。従つて我々には亞米利加人がもつともつと絹を着、毛皮を纏ひ、自動車に乗つて、其處等邊りの昭和鹿鳴館流からは世界一の文明の民と讃仰されてる方がよい譯である。

今の東京では餘り自慢は出来ぬが、合理的な小家屋を發案して現在の半分の面積で現在の人口を上手に收容したたら都市計畫家は勳一等級は貰へよう。

文化が進むと消費も嵩む。併し乍ら。

量的消費増加のみを以て文化生活の質的向上が齎されると思つてはならぬ。文化が進んで生産手段も殖へる時、無批判無統制な消費財の亂費は文化に寄生するパチルスの現象と云はねばならぬ。

歐米人の費す何分之一かの生活費で立派な文化的內容を持つた生活をやれる我々は偉い。近々數十年足らずして1個の茅野に過ぎなかつた三菱ヶ原に一ツ何百

萬何千萬円の高屋が揃比し得たのも此の國民個々の生活に於ける質素が齎したものに外ならぬのである。

簡素な生活に耐へて、^{マコト}最高度の文化を驅使し得るが故に日本は恐れられる。眞!! 我が強味は茲にある。

最近佛國の在上海駐支武官の著「青^{ターブルヴェール}卓」で、日本の兵は梅干一つ握飯を持てば戦が出来た事を重要な觀察の一つに擧げて居るが、握飯は愚、鯉節をしやぶつて1週間近くも山中を彷徨する猛者も出る。尤も此の方はするので無くて、するべく餘儀なくされた連中であらうが。

最近街頭宣傳は一寸下火になつたが、消費の合理化が旺に云はれる。

其の唱ふる御連中には大部毛唐の消費振を羨んでる様子の者が少くない。殊に家庭消費となると御婦人連の干渉地域であるのでどうも消費運動が漸知識振廻し運動に脱線して了つたりする。こんな間は我が消費運動は未だしもである。こんなバタ臭い消費運動は放送局の猷立と同じで我々平民百姓共の耳には這入り難い。

大部消費節約に肩を持つた様な事になつたが、全産聯邊りの棒擔ぎと思はれては困る。人を見て法を説け、産聯邊の御連中なら云ふ前に先づ待合勘定の1割も節約して置いてから來る事だ。

日本人は強い。なぜかと云へば最も非消費的で最も生産的であるから。茲に生産的とは各自の生理的方面をも含んでの事勿論である。